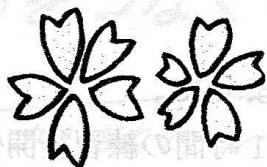


楽 楽


<http://www.asahikonsei.com/>

■練習スケジュール■

月 / 日	会 場	時 間	備 考
4月	16日(土)	旭丘公民館	19:00~21:00
	17日(日)	"	" 特別練習
	23日(土)	中央公民館軽音楽室 1	" 6:00~練習会
	30日(土)	旭丘公民館	"
5月	8日(日)	"	"
	14日(土)	"	" 19:00-20:00 Sop. V.T
	21日(土)	"	"
	28日(土)	"	"
	29日(日)	"	14:00~17:00 特別練習
6月	4日(土)	"	19:00~21:00
	11日(土)	"	"
	12日(日)	第 50 回愛知県合唱祭出演	出演時間等は未定です
	18日(土)	旭丘公民館	19:00~21:00
	25日(土)	"	"
	26日(日)	"	14:00~17:00 特別練習
7月	2日(土)	"	19:00~21:00
	9日(土)	"	"
	17日(日)	"	"
	23日(土)	"	"
	30日(土)	"	"
	31日(日)	"	13:00~17:00 特別練習



☆☆ 皆さん、演奏会モードにスイッチを切り替えましょう ☆☆

旭混声の演奏会は 10 月 30 日 (日)、あと 6 か月少々となりました。今後の練習は仕上げの段階に入ります。特別練習も大切な練習日程に位置づけられています。

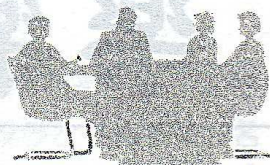
少なくとも、今月中には音取りなどは各自クリアーしておきましょう。まだ、自信が持てない方は積極的にパートリーダーなり周りの方に声をかけ、自らの課題を明確にして取り組みましょう。暗譜など、自宅での各自練習がとても大切になっています。

演奏 CD を聴いたり、練習用音取り CD などよく聴くこともいいですね。

■ 役員会報告 ■ (3月19日開催)

●平成22年度総会について以下の通り決定しました。

- ・日 時：4月16日(土) 20時～21時(1時間の練習後開催)
- ・総 括・練習記録・技術系事項・会計等の報告を行います。
- ・役員改選を行います。(各委員長決定予定)



●第50回愛知県合唱祭について

* 日 時：6月11日・12日 場所：稲沢市民会館

【演奏曲】「近代日本名歌抄」から 1.あの町この町 2.カチューシャの唄

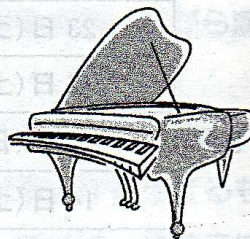
(※選曲は4月9日の練習日に発表されました)

* 出演ブロックを検討しました。第1希望として12日(日) H1ブロック

(出演時間 14:40～16:00)を申し込みました。

正式日程が決まり次第、詳細は後日報告いたします。

* ワークショップについては、個人参加となります。



●第8回演奏会の後援を下記に依頼することになりました。

愛知県合唱連盟・朝日新聞・瀬戸市・瀬戸市教育委員会・

尾張旭市・尾張旭市教育委員会・長久手町・長久手町教育委員会

■ 愛知県合唱連盟関連情報 ■

今年一月からマーラー没後 100 周年を記念して、東海地方のアマチュアオーケストラと県合唱連盟が全交響曲連続演奏会をスタートさせています。第8番「千人の交響曲」は、2012年7月15日(日)16日(祝)に予定され、県連加盟の合唱団に参加を呼び掛けています。楽曲は2部構成で、第1部は、賛歌「来れ、創造主たる聖霊よ」(歌詞はラテン語)、第2部は、ゲーテの『ファウスト 第二部』から最後の場(歌詞はドイツ語)が歌われます。大規模な管弦楽、8人の独唱者および複数の合唱団を要する文字通り「千人の交響曲」で約80分に及ぶ大曲です。

興味のある方は、インターネットの「YOUTUBE」で、サイモン・ラトル指揮 イギリス・ナショナル・ユース管弦楽団の演奏による迫力ある動画をご覧になれます。画像は複数のパートに分かれて投稿されています。 ※投稿先のURLを以下に記載しておきます。

<<http://www.youtube.com/watch?v=-W1j-rpcEw&feature=related>>

■ イベント情報 ■

◎グランフォニック第10回定期演奏会

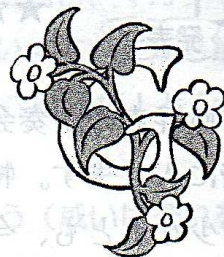
* 日 時：2011年5月28日(土) 午後5:00開演(4:30開場)

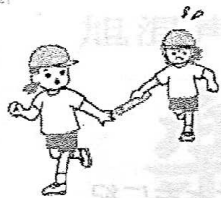
* 場 所：愛知県芸術劇場コンサートホール

* 演奏曲：Ⅰ「花鳥風月」 Ⅱ八木重吉の詩による男声合唱曲集 Ⅲ SEA SHANTIES

Ⅳ 音楽物語「太郎の愛」～もうひとつの浦島伝説～

* 指定席：2,500円 自由席：1,500円 ※お問合せは、出演される(B)早澤さんまで。





～こころをつなぐインタビューリレー～

久しぶりのリレーインタビュー！

今回のランナーはベースの橋詰喬さんです。

お引越し等でご多忙な、ソプラノの久野希見子さんよりのスキップバトンを受け取っていただきました。

■ご出身はどちらですか？御幼少の頃はどんなお子様でしたか？

岐阜県は中津川の生まれです。家が商売をしていたので養母に預けられ一人で遊ぶ、頭でっちな子供だったようです。幼稚園に入ってからケンカばかりやって親を困らせていたとか。それでも店の売り物の果物を持ち出してガキ大将や女の子に配りいい気になっていたことは覚えています。三つ子の魂何とか・・・で今もコミュニケーションを大事にしています。

■合唱を始められたのは？

勤めていた会社のコーラス部が中部地区（実業団）ではトップクラスで関心があったのと、今の女房が入っていたものですからアプローチしたくて入部しました。しかし1年でずっこけました。旭混声へは中島さんにお誘いいただき入団しました。神谷先生のご指導に感銘し、今に至っています。当時の練習はたいへん厳しかったですよ。

■今、合唱以外ではまっぴらっしやることおありですか？

テニス！いつまで続けられるかな。10年前にNHKに出演しました。定年後に始めた人物絵画（時にヌード）も感性を引き出してくれます。市民展にも出していますのでご覧になって下さい。最近新たにブルースハーブ（10穴ハーモニカ）にはまっています。

■今までやり遂げられたことは？

日本経済の成長期に必死の思いで企業戦士をやってきました。その分家族に迷惑をかけましたので心して挽回！バンカイ！（まだやり遂げていませんが・・・）

■心に残っている出来事や出会い、言葉などについてお聞かせくださいな。

大戦中の痛み！子供ながら危機が迫っていることを感じて身を寄せて耐えていました。東日本で被災された人々は長期に亘ってでも救済せねばなりません。

言葉といえば「全て我にあり」。喜怒哀楽の事象は全てが自分の為にある、との教訓言です。

■団員の皆様におすすめしたいことは？

週2回は歌うこと。声が出るようになりました。

■団への思いをひとことどうぞ。

楽しいです！「旭混声でやっています。」と胸張って言っています。両先生、皆さんよろしく願いいたします。

■次にインタビューのバトンをお渡しいただける方をご紹介いただけませんか？

パート アルト

お名前 須寄麻弓さん

《奥様へのアプローチは大成功でしたね♡ 楽しいお話しありがとうございました。》

(A・植村)



Cantate Domino (Miskinis) の歌詞にある Cithara は Aulos とともに紀元前から存在する楽器でギリシャ神話では、「キタラ」(チタラとも発音) の名手「アポロン」と「アウロス」の名人「マルシュアース」が音楽合戦を行い勝者の「アポロン」が敗者の皮を剥ぐという残酷な刑を行ったとされています。

何でも神(アポロン)に挑戦した傲慢の罪としての警告とされているようですが、なんとも残酷な警告ですし、その合戦の時、旗色が悪い「アポロン」は「キタラ」を上下逆さにして演奏してみせましたが笛では逆さにしては演奏できません、そこで勝負が決まったということですが一説には歌を歌いながら演奏したとあります、やはり笛ではこれもできません。

大変アンフェアな感じですが、「キタラ」＝「貴族的」VS.「アウロス」＝「職業(奴隷)的」の対立とする見方や、もともと楽器は歌の伴奏をするものとされていたようですが、「アウロス」は当時の楽器としては唯一連続音によるなめらかな旋律を演奏することが可能であったためギリシャではきわめて刺激的な楽器として警戒されていたとする説もあるようです。このアンフ

ェアな神話の意味についてはギリシャ文化における様々な対立を反映しているとも、又「キタラ」で象徴される「理性」対「アウロス」に表象される「狂気」とする見方があり、これを敷衍するかのように「ニーチェ」はこの神話の意味を「アポロンの側面(理性・合理性)」と「ディオニューソスの側面(陶醉・熱狂性)」の永遠の相剋と考えていたようです。今でも「アポロンの」とか「ディオニューソスの」とか対照的なモノを表現するのに使われています。

一方の「アポロン」はゼウスの息子で予言、牧畜、弓矢、音楽の神で、ギリシャでは理想的・知性的な青年像と考えられていたようです。他方の「ディオニューソス」は対照的に、ゼウス不倫の子で豊穣と葡萄酒・酩酊の神とされています。彼は各地を遍歴して民衆の心を掴み、特に熱狂的女性信者を獲得したとされていますが、何故か「アウロス」の名人「マルシュアース」に擬せられ「アポロン」の敵役となっているようです。訳のわからないところがギリシャ神話らしいところでしょうか。

神話の世界はともかく、音楽が合戦の対象となるのはバッハの昔からあったようです、時は1717年、場所はドレスデン、炎の天才オルイ・マルシャンがフランスからクラビーアの演奏家として当地に来て大評判となっていたところ、たまたまケーテンから旅してきた32歳のバッハに宮廷から競演の誘いがかかりました。バッハとしては高名なマルシャンの演奏に接するつもりであつたらしいのですが、宮廷内では政治的な暗闘があり別の期待<陰謀>があつたとも言われています。ともかく合戦の当日、マルシャンは現れずバッハの不戦勝となったのです。マルシャンは逃げたということにされていますが、48歳になっていた「大胆な人となり」の彼はバッハには会いたかったが、宮廷内のごたごたはごめんだ!と「ヤーメタ」を決め込んだという説もあります。

現代でもコンクールは闘いの場であり勝者は栄誉を手にし、敗者は傷つくことでしょう(或いはそれをバネにして一層飛躍する?)。楽しく美しい音楽の世界、さてその実態は? 「楽しく美しい」とは限らない・・・のかな。

その点、我々アマチュアの音楽サークル活動にあつては、他の人を傷つけることもなく、必要以上に苦しむこともないところが大きな魅力でしょうかね。